

【研究論文】

県内高校生の沖縄の言葉の使用について  
—変容していく言葉、残っていく言葉—

Use of the  
Okinawan Language by High School Students in Okinawa Prefecture :  
Transforming Words and Surviving Words

尚 真貴子  
Makiko SHO  
佐々木 香代子  
Kayoko SASAKI

1 はじめに

筆者らは、留学生在が沖縄の生活習慣や文化、言葉を学ぶための教材を作成する途中で、最近の沖縄出身の若者がどのような沖縄の言葉を使用しているか基本的な資料がないことがわかり、第一段階として2009年～2010年に沖縄県内（以後、県内とする）4大学に在籍する大学生の調査を行った。その後、科研費を得て、宮古・八重山地方を除く県内の全日制公立高校47校に在籍する1年生および3年生を対象に、2011年～2012年に質問票2種類と記述回答による調査を実施した<sup>1</sup>。本稿では、その結果の一部を基に、まず、統計結果から全体の状況を概観した後、記述回答の分析を中心に、沖縄の若者言葉について考察した野原（1996）との比較を交えながら、県内高校生の「沖縄の言葉」（方言<sup>2</sup>およびウチナーヤマトゥグチ<sup>3</sup>）の使用状況について考察する。

2 沖縄の若者の言葉

かりまた（2006）は、「沖縄、奄美地方のわかい人のおおくは、（中略）一部の例外をのぞき、琉球語<sup>4</sup>を聞いても理解できないか、すこしなら理解できる程度で、琉球語を体系的には所有していない

1 平成23年度～25年度科学研究費補助金基盤研究（C）「高校生が沖縄語使用についての調査・研究：消えていく言葉の中で何が残っていくか？」研究課題番号23520557、代表者：佐々木香代子。

2 本調査では、内間直仁、野原三義『沖縄語辞典：那覇方言を中心に』を基に、方言の分析を行っている。なお、音声表記および仮名表記の仕方、品詞分類も同辞典に依った。

3 ウチナーヤマトゥグチについて、屋比久（1987）は「日本語が沖縄方言に取って替わる言語転移の過程において起こった様々な干渉又はその結果うまれてきた色々な言語作品等を含む多種多様な言語現象」（1987：119頁）と述べ、真田（2001）は「ヤマトグチとの接触、あるいは標準語習得の過程で、基盤方言の干渉を受けて生まれた沖縄独自の中間的言語変種である」（2001：70頁）と述べている。筆者らは、「伝統的な沖縄方言ではなく、全国共通語でもなく、沖縄方言的な要素を含む言葉である」（尚・佐々木・狩俣、2013）と考える。

4 かりまた（2006）は、「琉球列島ではなされてきた固有の言語を「琉球方言」（と）よぶべきか「琉球語」とよぶべきか議論のあるところだが、ここでは「琉球語」を使用する」と述べ、同論文で「琉球語」を用いている。

とかんがえる。」(50頁)と述べている。筆者らが大学生を対象に行った調査の記述回答結果では、方言は知っているが、文レベルの発話には至らない現状、つまり、方言を「体系的には使用できず」、日常使用する言葉の共通語化が進んでいることが推測できた。その一方で、統計結果からは、「自分は使わないが聞くことはある」と回答した割合の高い語がほとんど方言であり、“方言を聞けるか話せない”大学生の状況が窺える結果となった(尚・佐々木・狩俣, 2013)。

さて、本調査より以前に、若い世代の沖縄の人の言葉を収集・分析した論文として、野原(1996)がある。野原(前掲)は、主に中学生～高校生を対象にした調査結果を基に、沖縄の若者が使用している言葉について、「若者言葉と言うのは、若者の間でよく用いられるもので、その寿命は、それほど長くはない。伝統方言の影響もあるようである。これらのものは、大人の間には広がるということは、まず無い。」(266頁)と述べている。野原(前掲)の言う「それほど長くはない」がどの程度の年数を想定しているのかはわからないが、野原の調査から15～16年後に行った本調査の記述回答に出現した語と野原(前掲)に出現した語とを比較することを通して、考察を試みたい。

### 3 調査の概要

2009年～2010年に県内4大学(沖縄大学、沖縄国際大学、名桜大学、琉球大学)に在籍する大学生(県内出身者および県外出身者)432名に対して実施したアンケート調査(質問票および記述回答)結果を踏まえて、調査票(質問票2種類および記述回答)を作成し、2011年～2012年に、(宮古、八重山地方を除く)県内の全日制公私立高校47校に在籍する1年生および3年生3,496名に対し、調査を実施した。

#### 3.1. 調査項目

2種類の質問票のうち、質問票(A)は、2009年～2010年に県内4大学の大学生を対象に実施したアンケート調査の質問肢を基に作成し、5つのスケールで尋ねた(質問数50項目)。スケールは、まず、使う、使わないに大別し、使わない場合はその語を聞くことがあるかどうかを考え、5件法とした。5つのスケールは下記の通りである(スケールの順序は、質問票に同じ)。

自分は使う	自分はたまに使う	自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く	自分は使わないが、他の人が使うのをたまに聞く	自分は使わないし、聞いたこともない
-------	----------	-----------------------	------------------------	-------------------

質問票(B)は、大学生対象のアンケート調査の記述回答に3回以上出現した語のうち、質問票(A)の質問肢に含まれていない語について使用の有無を尋ねた(質問数32項目)。

さらに、任意で記述する記述回答欄を設けた。高校生が自分たちの使っている(または聞く)言葉のうち、どんな言葉を「沖縄の言葉」として認識しているかを知るため、あえて、「方言」や「ウチナー

ヤマトウグチ」という言葉を使わず、下記のように「あなたが使う沖縄のことば」と指示し、大学生が記述回答したものを例としてつけた。

あなたが使う沖縄のことばがあったら、書いてください（書けたら、下記のように例文も書いてください）。

例) ゆくる：おばあちがお茶を飲んで、ゆくってる。  
あちこーこー：あちこーこーの天ぶらだよ。  
片降い：那覇だけ片降いしている。

さらに、「残したい沖縄のことば」についても、記述する回答欄を設けた。

「これからも残っていったらいいなあ」と思う沖縄のことばがあったら、書いてください。

また、フェイスシートでは、本人の出身地、学年、性別、両親の出身地、将来の志向、言葉の使用と理解についての意識などを書き込めるようにした。

### 3.2. 対象者

2011年～2012年に、(宮古、八重山地方を除く) 県内の全日制公私立高校47校に在籍する1年生および3年生3,496名に対し、2種類の質問票((A)、(B)) および記述回答を合わせた3種類で、調査を実施した。質問票はSPSSversion18を用いて分析したが、統計処理を行うにあたり、データに欠損(記入漏れ、無回答など)のある調査票を分析から除外したところ、有効回答件数は、質問票(A)については2,663件、質問票(B)については3,266件になった。なお、記述回答については全体の3分の1にあたる1,211名から回答を得(男性696名、女性502名、性別の無記入13名)、分析を行った。

## 4 質問票の分析と結果

まず、質問票の回答を統計処理した結果を基に、全体の傾向を概観する。回答のあった3,496名のうち、有効回答件数は、質問票(A)については2,663件、質問票(B)については3,266件であり、これらを分析の対象として統計処理(度数分布、クロス集計、平均値の比較)を行った。なお、本稿では、質問票(A)の結果を用い、分析・考察を行う。

### 4.1. 度数分布の結果

分析は、SPSSversion18を用いて行った。質問票(A)で、各々の項目について「自分は使う」と評定した割合を値の高い順に示したのが表1である。以下、「自分はたまに使う」の評定結果は表2、「自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く」の評定結果は表3、「自分は使わないが、他の人が使うのをたまに聞く」の評定結果は表4、「自分は使わないし、聞いたこともない」の評定結果は表5である。

表1 「自分は使う」と評定した語の頻度順

※斜体・太字は、ウチナーヤマトゥグチ〔 〕内は語の意味を表す。

割合	語
90%以上	
80~89.9%	「 <b>じょうとう</b> 」「 <b>~はず</b> 」
70~79.9%	「 <b>トイレする</b> 」「 <b>モップする</b> 」「 <b>~ようね/~ましようね</b> 」「 <b>~(し)きれない</b> 」「(布団を) <b>かぶる</b> 」「 <b>来る</b> 」
60~69.9%	「 <b>食べれ/~しれ</b> 」「 <b>~ながら</b> 」「 <b>~わけ</b> 」「 <b>~わけ?</b> 」「(着る物が) <b>せまい</b> 」「 <b>腐(くさ)れる</b> 」「(服を) <b>着ける</b> 」「 <b>なんぎ</b> 」
50~59.9%	「 <b>ちゃー~する</b> 」「 <b>やなー</b> 」「 <b>なおす</b> 〔片づける〕」「 <b>ふとい</b> (本)」
40~49.9%	「 <b>たたかれる</b> 」「 <b>なんぎする</b> 」「 <b>ふりむん</b> 」「 <b>やな~</b> 」「 <b>ゆんたくする</b> 」「(傘を) <b>かぶる</b> 」「 <b>にりる</b> 」「 <b>あわてる</b> 」
30~39.9%	「 <b>お昼する</b> 」「 <b>たんちゃー</b> 」「 <b>ふらー</b> 」「 <b>ゆくさー</b> 」「 <b>しかます</b> 」
20~29.9%	「 <b>いただいてください</b> 」「 <b>歯一ぎしぎしー</b> 〔歯ぎしり <sup>5)</sup> 〕」「 <b>がちまやー</b> 」「 <b>ちゅーばー</b> 」「 <b>とうるばやー</b> 」「 <b>あじくーたー</b> 」「 <b>いみくじわからん</b> 」「(数を) <b>よむ</b> 」
10~19.9%	「 <b>よーがりひーがり</b> 」「 <b>なんくるないさ</b> 」「 <b>~じょーぐー</b> 」「 <b>めーごーさー</b> 」「 <b>ちばりよー</b> 」
9.9%以下	「 <b>がーじゅー</b> 」「 <b>くわっちー</b> 」「 <b>びーらー</b> 」「 <b>よーがらー</b> 」

表2 「自分はたまに使う」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80~89.9%	
70~79.9%	
60~69.9%	
50~59.9%	
40~49.9%	
30~39.9%	
20~29.9%	「 <b>なんぎする</b> 」「 <b>しかます</b> 」
10~19.9%	「 <b>じょうとう</b> 」「 <b>トイレする</b> 」「 <b>モップする</b> 」「 <b>お昼する</b> 」「 <b>~ようね/~ましようね</b> 」「 <b>~(し)きれない</b> 」「 <b>いただいてください</b> 」「 <b>たたかれる</b> 」「 <b>~食べれ/しれ</b> 」「 <b>~ながら</b> 」「 <b>~わけ</b> 」「 <b>~わけ?</b> 」「 <b>よーがりひーがり</b> 」「 <b>歯一ぎしぎしー</b> 〔歯ぎしり〕」「(着る物が) <b>せまい</b> 」「 <b>腐れる</b> 」「(服を) <b>着ける</b> 」「 <b>ちゃー</b> 」「 <b>なんくるないさ</b> 」「 <b>がちまやー</b> 」「 <b>たんちゃー</b> 」「 <b>ちゅーばー</b> 」「 <b>とうるばやー</b> 」「 <b>なんぎ</b> 」「 <b>ふりむん</b> 」「 <b>ふらー</b> 」「 <b>めーごーさー</b> 」「 <b>やなー</b> 」「 <b>やな~</b> 」「 <b>ゆくさー</b> 」「 <b>ゆんたくする</b> 」「 <b>あじくーたー</b> 」「 <b>いみくじわからん</b> 」「 <b>ちばりよー</b> 」「(布団を) <b>かぶる</b> 」「(傘を) <b>かぶる</b> 」「 <b>来る</b> 」「 <b>にりる</b> 」「 <b>あわてる</b> 」「 <b>なおす</b> 〔片づける〕」「 <b>ふとい</b> (本)」
9.9%以下	「 <b>~はず</b> 」「 <b>がーじゅー</b> 」「 <b>くわっちー</b> 」「 <b>~じょーぐー</b> 」「 <b>びーらー</b> 」「 <b>よーがらー</b> 」「(数を) <b>よむ</b> 」

表3 「自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80~89.9%	
70~79.9%	
60~69.9%	
50~59.9%	

5 「歯一ぎしぎしー」には、〔悔しい〕という意味もあるが、本調査では、〔歯ぎしり〕の意味について調査した。

割合	語
40～49.9%	
30～39.9%	
20～29.9%	「たたかれる」「よーがりひーがり」「なんくるないさ」「がーじゅー」「がちまやー」「くわっちー」「～じょーぐー」「ちゅーばー」「とぅるばやー」「ふりむん」「めーごーさー」「やな～」「ゆくさー」「ゆんたくする」「あじくーたー」「ちばりよー」
10～19.9%	「お昼する」「いただいてください」「～わけ?」「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「ちゃー」「たんちゃー」「なんぎ」「なんぎする」「びーらー」「ふらー」「やなー」「よーがらー」「いみくじわからん」「(傘を) かぶる」「しかます」「にりる」「あわてる」
9.9%以下	「じょうとう」「トイレする」「モップする」「～はず」「～ようね/～ましようね」「～(し)きれない」「～食べれ/しれ」「～ながら」「～わけ」「(着る物が) せまい」「腐れる」「(服を) 着ける」「(布団を) かぶる」「来る」「(数を) よむ」「なおす〔片づける〕」「ふとい(本)」

表4 「自分は使わないが他の人が使うのをたまに聞く」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	
50～59.9%	
40～49.9%	
30～39.9%	「よーがりひーがり」「なんくるないさ」「がーじゅー」「くわっちー」「めーごーさー」
20～29.9%	「いただいてください」「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「がちまやー」「～じょーぐー」「ちゅーばー」「とぅるばやー」「よーがらー」「いみくじわからん」「ちばりよー」
10～19.9%	「お昼する」「たたかれる」「たんちゃー」「なんぎする」「びーらー」「ふりむん」「ふらー」「やな～」「ゆくさー」「ゆんたくする」「あじくーたー」「(傘を) かぶる」「しかます」「あわてる」「(数を) よむ」「なおす〔片づける〕」
9.9%以下	「じょうとう」「トイレする」「モップする」「～はず」「～ようね/～ましようね」「～(し)きれない」「～食べれ/しれ」「～ながら」「～わけ」「～わけ?」「(着る物が) せまい」「腐れる」「(服を) 着ける」「ちゃー」「なんぎ」「やなー」「(布団を) かぶる」「来る」「にりる」「ふとい(本)」

表5 「自分は使わないし、聞いたこともない」と評定した語の頻度順

割合	語
90%以上	
80～89.9%	
70～79.9%	
60～69.9%	「びーらー」
50～59.9%	
40～49.9%	
30～39.9%	「くわっちー」「よーがらー」「(数を) よむ」
20～29.9%	「いただいてください」「よーがりひーがり」「歯ーぎしぎしー〔歯ぎしり〕」「がーじゅー」「～じょーぐー」
10～19.9%	「お昼する」「～わけ」「なんくるないさ」「とぅるばやー」「ゆくさー」「あじくーたー」「いみくじわからん」「(傘を) かぶる」「しかます」「あわてる」「なおす〔片づける〕」

割合	語
9.9%以下	「じょうとう」「トイレする」「モップする」「～はず」「～ようね/～ましようね」「～(し)きれない」「たたかれる」「～食べれ/しれ」「～ながら」「～わけ?」「(着る物が)せまい」「腐れる」「(服を)着ける」「ちゃー」「がちまやー」「たんちゃー」「ちゅーばー」「なんぎ」「やなー」「やな～」「ゆんたくする」「ちばりよー」「(布団を)かぶる」「来る」「にりる」「ふとい(本)」「なんぎする」「ふりむん」「ふらー」「めーごーさー」

#### 4.1.1. 度数分布の結果の考察

- ・表1の高校生が「自分は使う」と評定している語のうち、60%以上を占めているのは全てウチナーヤマトゥグチである。一方、19.9%以下は全て方言である。20%台～30%台にはウチナーヤマトゥグチも出現しているが、ほとんどが方言である。つまり、「よく使う」頻度の高い語はウチナーヤマトゥグチであり、頻度の低い語は方言という傾向が見られ、この結果は大学生に対する調査結果と同じである。
- ・表4の「自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く」と評定している語は、ウチナーヤマトゥグチが9.9%以下に集中しているのに対し、方言は10%台～20%台に集中している。
- ・表5の「自分は使わないし、聞いたこともない」と評定している語は、ウチナーヤマトゥグチが9.9%以下に集中しているのに対し、方言は分布が広い。なお、方言のうち、「びーらー」の頻度が突出して高いが、これも大学生に対する調査結果と同じである。

度数分布の本調査結果を見る限り、高校生にとってウチナーヤマトゥグチは使用語彙であるが、方言は理解語彙とみなすことができるだろう。高校生は沖縄の方言を全く知らないわけではないが、「使用」ではなく、「理解」に留まっていると言う点で、この状況が続けば、方言が次の世代に受け継がれる可能性は低いと考えられる。

#### 4.2. クロス集計 ( $\chi^2$ 検定) および平均値の結果<sup>6</sup>

- ・両親の出身と沖縄の言葉の使用との間に有意な関連性が見られた。両親が「どちらも県内出身」の生徒は、両親の出身が「どちらも県外」、「どちらかが県外」の生徒に比べ、「自分は使う」と答える割合が高い。
- ・将来の志向と沖縄の言葉の使用との間に有意な関連性が見られた。将来、「県内で進学・就職を希

6 両親の出身、将来の志向、地域についての回答者数の内訳は下記の通りである。なお、「クロス集計」、「平均値の比較」の統計結果は、資料2、3を参照。

両親の出身		将来の志向		地域	
どちらも県内	2,270	県内で進学・就職希望	1,481	北部	479
どちらかが県内	333	県外で進学・就職希望	838	中部	815
どちらも県外	60	わからない	344	南部	315
				那覇・浦添	1,054
計2,663 (有効回答件数)		計2,663 (有効回答件数)		計2,663 (有効回答件数)	

望している」生徒は、「県外で進学・就職を希望している」と答えた生徒、「わからない」と答えた生徒に比べ、「自分は使う」と答える割合が高い。

- ・地域と沖縄の言葉の使用との間に有意な関連性が見られた。他地域（北部、中部、那覇・浦添）に比べ、南部地域が沖縄の言葉を使用する傾向が見られた。
- ・沖縄の言葉の使用について、「積極的使用」、「消極的使用」、「無関心」に分類し<sup>7</sup>、クロス集計（ $\chi^2$ 検定）で有意な関連性が見られた両親の出身（3群）、将来の志向（3群）、地域（4群）との比較を行った結果、「積極的使用」は、両親が「どちらも県内出身」、「将来、県内での進学・就職を希望」、「南部地域」が高い。

#### 4.2.1. クロス集計（ $\chi^2$ 検定）および平均値の結果の考察

両親が「どちらも県内出身」の場合、日常的に沖縄の言葉に触れている可能性が高く、この結果から家庭内の言語環境の重要性が示唆される。また、将来の志望が県内志向か県外志向かで沖縄の言葉の使用に有意な差が生じたのは、井上（1998）が山形県の中학생対象の調査結果として「将来首都圏に住もうという生徒は共通語に傾き、将来Uターンして地元に住もうという生徒は新方言に傾く」（38頁）と述べ、「遠い将来の人生計画が中学生のことばに影響を与えている。」（同頁）と述べているように、県外では沖縄の言葉は通じない、あるいは共通語を使わなければならないという潜在的な意識が働いているためであると思われる。

本調査で「南部地域」が有意に高かった理由としては、南部は、例えば、旧正月、字や部落単位でのハーレー、綱引きなどの伝統的な行事がまだ根付いている地域であり、伝統文化に対する地域全体の意識が言語使用に影響していることが考えられる。

上記クロス集計（ $\chi^2$ 検定）および平均値の結果から、沖縄の言葉を受け継いでいくキーワードとして、①家庭の言語環境、②個人の将来志向、③伝統文化に対する地域の意識が挙げられる。

## 5 記述回答の分析と結果

記述回答については、全体の3分の1にあたる1,211名から回答を得た（男性696名、女性502名、性別の無記入13名）。前述したように、あえて、「方言」や「ウチナーヤマトウグチ」という言葉を使わず、「あなたが使う沖縄のことば」と指示したが、語種別に分類すると、方言が全体の78.76%を占め<sup>8</sup>、記述回答した高校生の約8割が「沖縄の言葉」イコール「方言」と認識している様子が窺われた。

なお、記述のあった語の中で同じ語と判断できるものは1つの語と考えた。例えば、「わん〔わた

7 「自分は使う」を5点、「自分はたまに使う」を4点、「自分は使わないが他の人が使うのをよく聞く」が3点、「自分は使わないが他の人が使うのをたまに聞く」が2点、「自分は使わないし聞いたこともない」を1点とし、回答者毎にそれぞれの質問肢について点数化し、合計点を出した。その結果を、「積極的使用」「消極的使用」「無関心」に分類した。

8 語種別出現数上位5位は、方言78.76%、共通語7.31%、方言（語尾が共通語）6.82%、ウチナーヤマトウグチ3.63%、共通語+方言1.79%の順であった。

し]」は、「わぁ」「わーん」のバリエーションがあったが、1つの語と判断した。また、「しかんだ」「しかんで(い)る」は、「しかむ〔驚く〕」の活用形と考えられるので、1つの語と判断した。その結果、述べ語数は4,077語、異なり語数は767語となった。これらの語について、高校生の使用する沖縄の言葉の傾向を考察し、野原(前掲)に出現する語との比較を試みる。

### 5.1. 高校生の使用する沖縄の言葉の傾向

1) 「うしえーいん〔侮る、バカにする〕」が「うしえる」に、「かしまさん〔うるさい〕」が「かしまさい」になるように、方言の動詞や形容詞の語尾を共通語の語形にして使用している。

2) 全国共通語では口に出して言いにくい言葉(隠語、卑俗な言葉、脅し言葉など)を方言で使用している。

例) くぬひゃー〔この野郎〕、げれん〔ばか〕、たっくるさりんどー〔たたき殺すぞ→やっつけるぞ〕

3) 身近な動物や食材、食べ物の方言はよく知っている。

例) がじゃん〔蚊〕、とーびーらー〔ごきぶり〕、まやー〔猫〕、やーるー〔やもり〕、  
ごーやー〔ニガウリ〕、なーべーらー〔へちま〕、さーたーあんだぎー〔沖縄ドーナツ〕

4) 「～する人」、「～な人」を表す言葉が216語あり、名詞の全体の14%を占める。沖縄の言葉には、動詞語根につけて「動作を行う人」を表す接尾辞「+やー」があるが(例えば、「あびやー〔大声で話す人〕」、「くさかやー〔草を刈る人〕)、高校生はちょうど英語の接尾辞「+er」をつけるような形で人を表す言葉を作っている<sup>9</sup>。

例) 英語のrich→りっちゃー〔お金持ち〕、与勝(地名)→よかちやー〔与勝の人〕、  
やらかす→やらかさー〔やらかす人〕

5) 人を表す言葉で、乱暴な言葉、人を見くんだり差別するような言葉が見られる。

例) ふらー〔ばかな者〕、みんかー〔耳が遠い人〕、でいきらんぬー〔出来の悪い人、頭が悪い人〕

6) 「する動詞」の「～する」の「～」の部分は、半数以上がオノマトペで占められている。

例) ちーごーごーする〔血がだらだら流れる〕、わじわじーする〔イライラする、怒る〕、  
ちーちーかーかーする〔喉に細かいものがへばりついている感じ〕

なお、オノマトペ以外には、「ゆんたくする〔おしゃべりする〕」、「ひざまずきする〔正座する〕」

9 宮良(2000)は、「動詞語根に付属して動詞が意味する動作を行う人を表す接尾辞「+やー」がある」(43頁)とし、「英語における接尾辞「+er」とかなり似ている」(44頁)と述べている。



などの言葉が多かった。

7) テレビやラジオ放送、CM、アニメなどで使われる決まり文句がみられる。

例) たっぴらかす [たたきつぶす]、わじらんけ [怒るな]、まぶい [魂]、なんくるないさ [何とかなるさ]、ゆたしく [よろしく]、ぬちどうたから [命こそ宝]、ぬちぐすい [命の薬、おいしいご馳走]

8) もともと名詞だった方言を副詞としても使用しているだけでなく、副詞としての使用頻度の方が高い。

ア) 「てーげー [適当] 〈名詞〉」

例) てーげーはきらい。[適当] 〈名詞〉

てーげーやばい。[とても] 〈副詞〉

イ) 「やっけー [やっかい] 〈名詞〉」

例) おまえ、やっけーだな。[やっかい] 〈名詞〉

やっけー疲れた。[とても] 〈副詞〉

## 5.2. 高校生が使用する沖縄の言葉の音声および表記の傾向

1) 沖縄の方言に特徴的な喉頭破裂音を示す表記が見られず、共通語に近づいた発音の表記になっている。

例) 「っやー [ʔja:]」 → 「やー」、「っんじ [ʔndʒi]」 → 「んじ」

2) 語中や語尾の長音にバリエーションが見られ、全体的に広がっている（バリエーションが特定の地域に限られていない）。

ア) 語中の長音

例) 「とーびーらー」と「とーびらー」、「よーんなー」と「よんなー」

イ) 語尾の長音

例) 「しーじゃ」と「しーじゃー」、「いきが」と「いきがー」、「ふーじ」と「ふーじー」

3) 語尾の長音化イコール沖縄の言葉という認識がある。

ア) 人の名前の語尾の長音化

例) 「よし子」 → 「よし子ー」

イ) 共通語の語尾の長音化

例) 「コーラ」 → 「コーラー」、「イライラ」 → 「イライラー」、「すぐ」 → 「すぐー」、

「(その靴下) かたちんば」 → 「かたちんばー」

### 5.3. 高校生が使用する、伝統的な方言にはない言葉

1) 高校生が記述回答した語の中には、伝統的な方言にはない言葉の使用が見られる。なお、回答者が特定の地域に限定されているものには※をつけた。

ア) 「～ばー [におい]」 いい匂いも悪い臭いにも使う

例) あせばー [汗の臭い]、香水ばー [香水の匂い]、ごーやーばー [ごーやーのにおい]、  
うんこばー [うんこの臭い]

イ) 「～ばー [～みたいなの/～のふり]」

例) かわいいばー [かわいいふり]

ウ) 「ぼんげー [ぼろい]」 ※那覇・浦添～南部

例) このペン、ぼんげーだろ [このペン、ボロで使えない]

エ) 「へんちら」または「へんぢら」 [変な顔]

例) へんぢらーさんけー [変な顔するな]  
みんなでへんちらしよ [みんなで変な顔しよう]

オ) 「ばんぎる [ふくらんで、でかい]」

例) 鼻ばんぎってる [鼻がふくらんでいる]、はなばんぎー [鼻がでかい]、  
ちらばんぎってる [顔がでかい]

カ) 「ばひる [声が裏返る]」 ※中部 (うるま市)

例) 声がばひる [声が裏返る]

キ) 「ふぁーきる」または「ふぁきる」 [でしゃばる] ※北部

例) ふぁーきってる [でしゃばってる]、ふぁきってる [でしゃばってる]

ク) 「さら [とても]」 ※北部

例) さらうまい [とてもおいしい]、さらやばい [とてもやばい]

ケ) 「しか [とても]」

例) しか暑い [とても暑い]、しか眠い [とても眠い]

コ) 「しにかん [とても]」※北部

例) この本、しにかん楽しい [この本、とても楽しい]

サ) 「すーさー [さりげなく]」

例) すーさーいたずらすんなー [さりげなくいたずらするな]

シ) 「ちけー [もうすぐ]」

例) ちけー行くからさ [もうすぐ行くからさ]

ス) 「ぶちばい [全力で]」※北部

例) ぶちばいしれよ [全力で走れ]

2) 記述回答の中に、共通語から生まれたと思われる言葉の使用が見られる。なお、回答者が特定の地域に限定されているものには※をつけた。

ア) 「おおげー [おおげさ]」※うるま市

例) おおげー [おおげさ]

イ) 「しんけん [本当? ]」

例) A: AKB、沖縄来るってよ。B: しんけん?

ウ) 「まーめー [真面目]」

例) あの人、まーめーだね [あの人、真面目だね]

エ) 「しける [テンションが下がる、しらける]」

例) この授業、しけるー [この授業、しらける]

#### 5.4. 記述回答の分析結果の考察

- ・ 高校生は、方言の動詞と形容詞の活用語尾を共通語にして使用する傾向が見られる。このことから、方言の動詞と形容詞の伝統的な活用形は失われる一方で、活用語尾を共通語化することにより、方言の語幹は今後も残っていく可能性が考えられる。
- ・ 方言の名詞を「する」と結び付けて「する動詞」として使用している傾向が見られることから、方

言の名詞の中で「する動詞」になる語は受け継がれる可能性があるが、「する動詞」にならない語（例えば、「びーらー」「よーがらー」など）は、そうした可能性が低いと考えられる。

- ・記述回答した語を品詞別に分類すると、名詞は約40%近くを占めているが、その中でも、人を表す語が14%を占める。高校生は、方言だけでなく共通語や英語にも、人を表す接尾辞「+やー」や「+あー」をつけて（宮良（2000）が述べているように、ちょうど英語の「er」をつけるような形で）人を表す語を作っているの、こうした語は今後も生産されていく可能性がある。その他に、名詞の中では、日常的に目にする動物や食材、食べ物の語は受け継がれていくと思われる。さらに、「でーじ」「しに」以外に、「しか」「やっけー」「した」など、程度を表す副詞のバリエーションが多く、今後も使用が増えていく可能性がある。

### 5.5. 野原（1996）との比較

野原（前掲）は、中学生および高校生が使用する「若者言葉」を収集・考察している。では、野原（前掲）と本調査の記述回答の出現語には、どのような共通点、相違点があるのだろうか。

#### 5.5.1. 野原（前掲）に出現した語の本調査での出現率

先ず、同論文に出現した117語を、本調査の記述回答にも出現した語、出現しなかった語、語形または意味が異なる語に分類すると、それぞれの出現数は下記の通りになり、同論文に出現した語の約半数が現在も高校生の間で使われていることがわかる。

野原（1996）、本調査ともに出現した語の数	野原（1996）とは、語形または意味が異なる語の数	野原（1996）には出現したが、本調査には出現しなかった語の数
55語（47.0%）	6語（5.1%）	56語（47.8%）

なお、本調査には①野原（前掲）と同じ語形は出現しなかったが、異なる語形が出現した場合、②同じ語形が出現したが、意味が異なる場合に、「野原（1996）とは、語形または意味が異なる語」として、まとめた。

野原（1996）に出現した語	本調査に出現した、野原（1996）とは語形または意味が異なる語
～ちょん [～ている]	～ちょん
ゆんたくー [おしゃべりな人]	ゆんたくー [おしゃべり] ※語形は同じだが、意味が異なる
ぶーぴやー [おならをする人]	ぶーひや、ぶーひゃー
しなーす [殴る]	しなす
ぐわーし [不良]	ぐわーしー、がーし
あげーっ (感動詞)	あげー、あげっ

上記のように、発音上の異なり（「ぴや」が「ひや」や「ひゃ」に、「ぐわ」が「が」になる）の他、語中および語尾の長音に移動が見られる（「ちょん」が「ちょん」に、「ぐわーし」が「ぐわーしー」になるなど）が、長音の移動については、野原（前掲）、本調査ともに出現した語のうちの16語につ

いても、下記のようなバリエーションが見られる。

例)

野原 (1996)	本調査	
	野原 (1996) と同じ語形	野原 (1996) と異なる語形
わじわじー [イライラする]	わじわじー	わじわじ
しかー [すぐ驚く人]	しかー	しっか、しか
あいやー (感動詞)	あいやー	あいや、あいやっ

### 5.5.2. 品詞別比較

先ず、同論文に出現した語を品詞別に分類すると、名詞が最も多く (33.3%)、次に、副詞、動詞、終助詞の順になる。本調査の記述回答に出現した語も、名詞が最も多く (37.37%)、2位以下の順位は多少異なるものの、5位以内に表れる品詞は同じ傾向である。

表6 野原 (1996) の品詞別出現数

順位	品	詞
1	名	詞 33.3%
2	副	詞 18.8%
3	動	詞 13.7%
4	終	助詞 8.5%
5	形	容詞 7.7%

表7 本調査の品詞別出現数

順位	品	詞
1	名	詞 37.37%
2	動	詞 9.79%
3	終	助詞 8.96%
4	形	容詞 6.48%
5	副	詞 6.45%

野原 (前掲) に出現した名詞のうち、66.7%は「～する人」あるいは「～な人」を表す語 (25語) で、全体の21.4%を占める。また、語の内容を見てみると、下記のように、人を悪く言う言葉が多い。

例)

がちまやー [食いしん坊]	ひんじゃー [不良、ならず者]
しかー [すぐ驚く人]	ふらー [バカ]
しかばー [すぐ驚く人]	ぷーびやー [おならをする人]
ばーちかー [うそつき]	ほらふっちゃー [ほら吹き]
ひゃー [野郎]	ゆくさー [うそつき]

本調査においても、「～する人」「～な人」を表す語の出現率は高い (16.07%) が、同論文と共通して出現している語は下記の7語に過ぎない。これらの語は、いずれも、意味としては人を悪く言う言葉である。

がちまやー [食いしん坊]	ひゃー [野郎]
しかー [すぐ驚く人]	ふらー [バカ]
しかばー [すぐ驚く人]	ゆくさー [うそつき]
ばーちかー [うそつき]	

また、副詞22語のうち16語が程度を表す副詞であるが、これら16語のうち10語が本調査にも出現している（「しに」「でーじ」「あんち」「しんけん」「しにかん」など）。

動詞と形容詞は、下記のように、方言に共通語の語尾をつけた形になっているのが特徴で、本調査でも同様の傾向が見られた。なお、野原（前掲）に出現した語の本調査での出現率は、動詞では56.3%、形容詞では33.3%である。

例)

動 詞	形容詞
うしえーてる [バカにする]	あんまさい [調子が悪い] ※本調査での意味は、[めんどくさい]
しかむ [驚く]	ちむい [かわいそう]
くるす [殴る]	あらい [すごい]

### 5.5.3. 語形や音声の変化

野原（前掲）では、「あぬひゃー [あの野郎]」が「あのひゃー」になっている例があり、共通語の「あの」と方言の「ひゃー」が組み合わせられたものと分析している。本調査では、「あのひゃー」は出現しなかったが、「あにひゃー」「くにひゃー」（本来は「くぬひゃー [この野郎]」）が出現している。「あぬ」「くぬ」が、なぜ「あに」「くに」になったかは、わからない。その他、野原（前掲）では、下記のように変化する例が見られる。

#### ①長音が短音化する

「ちゅーじゅ<sub>二</sub>く [強く]」が「ちゅーじゅく」

#### ②長音が落ちて、撥音加わる

「ちゅ<sub>二</sub>じゅーく」が「ちゅ<sub>ん</sub>じゅく」

#### ③「ちゅい」が「ちー」に変化する

「どーちゅいむにー」が「どーちーむにー」

#### ④「じゅ」が「じ」に変化する

「ちゅーじゅーく」が「ちゅーじく」

本調査では、下記のように、

#### ①長音が短音化する

「ひーじ<sub>二</sub> [いつも]」が「ひーじ」、

「どー<sub>二</sub>ぐるい [心苦しい]」が「どーぐるい」

#### ②長音が加わる

「いなぐ [女]」が「いなぐ<sub>二</sub>」、「すーじ [路地]」が「すーじ<sub>二</sub>」

などの例が見られたが、撥音加わる例は見られなかった。この他、下記のように発音に変化する例

が見られた。

- ③ 「ひっちー [しょっちゅう]」が「しっちー」
- ④ 「ぐわーしー [～の真似をすること]」が「がーし」
- ⑤ 「しかます [驚かせる]」が「しかばす」
- ⑥ 「にふえーでーびる [ありがとう]」が「にへーでーびる」、  
「ふえーく [早く]」が「へーく」

本調査では、他に、「いったー [お前たち]」が「やったー」になる例が非常に多く見られたが（[お前たち]の表す19例中、16例が「やったー」）、これは[お前]を意味する語が「やー」であることから生まれた造語と考えられる。なお、野原（前掲）は、「若者で [ɔja:] を正確に発音できるものは、ほとんどいない」（272頁）と述べているが、本調査においても、「っやー」が「やー」に、「っわー」が「わー」に、「っんじ」が「んじ」になっており、若者から喉頭破裂音が失われている状況が窺われた。

#### 5.5.4. 野原（前掲）との比較の考察

野原（前掲）に出現した語の半数近くが、現在も、高校生に使用されていることがわかった。本調査は、2011年～2012年に実施したもので、野原（前掲）の調査から15～16年が経過している。野原（前掲）の調査対象者は、当時、主に中学生～高校生であったことから、本調査の実施時期には20代の終わり～30代初めと考えられるため、家庭の中でこれらの語が受け継がれた可能性は低い。本調査では、「しーじゃ [年上、先輩]」が63回（頻度順4位）、「うっとう [年下、後輩]」が23回（頻度順27位）出現しており、高校生の先輩・後輩関係の強さが窺われる結果になっていることから、むしろ、高校生活という環境の中で、先輩から後輩へと言葉が受け継がれたと考える方が自然と思われる。

品詞別の分析結果で、野原（前掲）には程度を表す副詞が多く、その半数以上が現在の高校生に受け継がれていることがわかった。また、同じ語形ではないが、語としては同じ（例えば、「さっこー」はあるが、「さっこ」はないなど）と考えると、野原（前掲）には出現したが本調査には出現しなかった程度を表す副詞は「うみちか」だけになり、ほとんどが現在の高校生に受け継がれていることになる。さらに、本調査には、野原（前掲）には出現しなかった「しか」「した」「さら」などがあり、程度を表す副詞のバリエーションは、さらに増えていることがわかる。程度を表す副詞は、方言だけでなく、共通語とも組み合わせがしやすいため、受け継がれる割合が高く、バリエーションは今後、さらに増える可能性があると思われる。

また、動詞に「る」をつけたり、形容詞に「い」をつけるなど、語尾を共通語化する特徴もまた、現在の高校生に受け継がれている。米川（2014）が、「る」ことばは、「どんな語にも簡単につく手軽な造語法である」と述べているが、動詞の「る」に限らず、方言に共通語の活用語尾をつけた造語は、今後、ますます増えていくと思われる。

名詞では、約3分の2が「～する人」あるいは「～な人」を表す語であるが、このことから、方言の接尾辞「+やー」をつけて「動作を行う人」を表したり、「+あー」をつけて「人の特性」を表す造語法が高校生に受け継がれていると考えてよいだろう。宮良(2000)が述べているように、高校生は、ちょうど英語の接尾辞「+er」をつけるような感覚で言葉を造っているのかもしれない。ただ、これらの語の多くが人を悪く言う言葉であるというのは注目すべき点であろう。野原(前掲)には出現しないが、本調査では、人を悪く言う言葉以外に、隠語や卑俗な言葉も名詞の中に出現している。共通語で言うのと誰にとっても明らかな言葉の意味を隠し、意味を知っている者同士で意図や感情をシェアするために、方言が利用されていると言えるだろう。

## 6 変容していく言葉、残っていく言葉

本調査は科研費の助成を受けて実施したものであるが、副題は「消えていく言葉の中で何が残っていくか?」であった。最後に、これまでの記述回答結果を下記の観点から考察し、本論のまとめとしたい。

### <変容していく言葉>

- ・方言の動詞と形容詞の活用語尾が共通語化していることから、方言の活用語尾は今後も失われていき、共通語の語尾に取って替わられるだろう。
- ・野原(前掲)も指摘している通り、「っやー [ʔja:]」、「っんじ [ʔndʒi]」など、沖縄の方言に特徴的な喉頭破裂音は若い世代の間で失われ、共通語に近づいた発音に変わっていくだろう。
- ・「あんし [そんなに]」が「あんち」に、「ひっちー」が「しっちー」に、「にふえーでーびる」が「にへーでーびる」になるなど、音声の変化が見られることから、本来の方言の発音の語に、変化した発音の語が加わり、発音上のバリエーションが生じる可能性がある。
- ・「じーまーみー豆腐」を「じーまみー豆腐」と発音する人が増えているように、本来の長音の位置が曖昧になっている他、「ふーじ [風采]」が「ふーじー」になるなど長音が加わる例もあり、バリエーションが増えている。今後も、こうしたバリエーションの広がりが増えていく可能性がある。

### <残っていく言葉>

- ・方言の動詞の語尾が「る」に、形容詞の語尾が「い」になるなど、活用語尾が共通語化することで、動詞と形容詞の方言の語幹は残っていく可能性がある。これは野原(前掲)が指摘している「方言+共通語」のパターンである。
- ・共通語では言いにくい言葉を若者同士でシェアするために、人を悪く言う言葉や隠語、卑俗な言葉は今後も残っていく可能性がある。
- ・程度を表す副詞は、共通語と組み合わせて使えるという利便性がある。さらに、本来名詞だったものの副詞的用法も出現しており(「やっけー」「てーげー」「しんけん」など)、程度を表す副詞およ



び副詞的用法の言葉のバリエーションは今後さらに増えていくと思われる。

- ・オノマトペを中心に方言の名詞を「する」と結び付けて「する動詞」として使用している傾向が見られる（「わじわじーする〔イライラする〕」「ちーちーかーかーする〔食べ物が喉につかえる様子〕」、オノマトペ以外では「ゆんたくする〔おしゃべりする〕」「ひざまづきする〔正座する〕」など）ことから、方言の名詞の中で「する動詞」になる語は受け継がれる可能性がある。
- ・身近な動物や食べ物を表す言葉（「がじゃん〔蚊〕」、「やーるー〔やもり〕」、「さんぴん茶〔ジャスミンティー〕」「まーす〔塩〕」「さーたーあんだぎー〔砂糖天ぷら＝沖縄ドーナツ〕」など）、つまり日常的に頻繁に目にしたり耳にしたりする語は今後も日常生活の中で使用されていく可能性がある。
- ・テレビやラジオ、アニメ、CMなどで使用される言葉や決まり文句（「なんくるないさ〔なんとかなるさ〕」「たっぴらかす〔叩きつぶす〕」「ぬちぐすい〔命の薬〕」など）は、少なくとも理解できる語として残っていく可能性がある。

上記の他に、下記のように、新しい言葉が生まれていく可能性もある。

- ・高校生は語尾が長音化した言葉を「沖縄の言葉」と認識する傾向があることから、共通語や外来語の語尾を長音にして、「沖縄の言葉」のように使用する。
- ・接尾辞の「+やー」や「+あー」を共通語や英語の名詞や動詞語根につけて「～する人」「～な人」という人を表す語を作っていく。
- ・「わったー〔わたしたち〕」の連想から、「やー〔お前〕」に複数を表す「たー」をつけて、「お前たち」という意味で「やったー」という言葉を作ったり、「なだそうそう〔涙がぼろぼろこぼれる〕」からの連想で「はなみずそーそー〔鼻水がたらたら流れる〕」という言葉を作るように、もともと存在する方言からの連想で、新しい言葉を作っていく。
- ・「あちこーこーいんぐわー〔ホットドック〕」「へんちら〔変な顔〕」というように、方言と方言、方言と共通語を組み合わせることで共通語あるいは外来語の直訳的な言葉を作っていく。

## 7 おわりに

前述したように、野原（前掲）は、「若者言葉と言うのは、若者の間でよく用いられるもので、その寿命は、それほど長くはない。伝統方言の影響もあるようである。これらのものは、大人の間にも広がるということは、まず無い。」(266頁)と述べている。本調査の記述回答に出現した語においても、伝統方言の影響は見られた。ただ、大人の間にも広がっているかどうかについては、野原（前掲）の調査対象者の世代（今の20代終わり～30代初め）だけでなく、それより年齢が高い世代を対象に調査をする必要があるだろう。言葉の寿命については、野原（前掲）がどのくらいの年数を想定しているのかはわからないが、野原（前掲）の出現語のうち、本調査の記述回答に出現しなかった約半数の語は

当時の「若者言葉」と言えるだろう。

井上 (2008) は、「流行語は、使っている当人も流行している言葉だという意識があるが新方言ははやっているという意識がなく小さい時から使っていた、でも親は使っていないというのが大きな特徴。」(122頁) と述べている。本調査では、親の世代に対して調査を行っていないため、(仮に、井上の言う「新方言の3つの定義」<sup>10</sup> を満たしているとしても) 記述回答に出現した語が「新方言」かどうかは判断できない。親の世代を対象とした調査が必要と思われる。

沖縄の方言は消滅の危機にあると叫ばれており、本調査の統計結果からも、方言の使用が次世代に受け継がれる可能性は低いと推測される結果が出たが、一方で、記述回答した高校生の言葉の中には、野原 (前掲) が指摘しているように、伝統方言の影響を受けた語が存在している。井上 (前掲) が言及しているように、「まだ方言の活力はある」と考えてよいと言えるだろう。

### 〈参考文献〉

- 井上史雄 (1985) 「新方言の存在と認定」『言語生活』399, pp.22-31.
- 井上史雄 (1998) 「「新方言」とは何だ? 共通語化が進んでも方言は生まれ続けている」『望星』29 (11), pp.33-38.
- 井上史雄 (2008) 「新方言を考察する」『りびる』創刊号, pp.120-123.
- 内間直仁 (2002) 「琉球方言の現況と将来」『国文学解釈と鑑賞』第67巻7号, pp.22-33.至文堂
- 内間直仁, 野原三義 (2006) 『沖縄語辞典: 那覇方言を中心に』研究社
- かりまたしげひさ (2006) 「沖縄若者ことば事情: 琉球・クレオール日本語試論」『日本語学』25-1, pp.50-59.
- かりまたしげひさ (2008) 「トン普通語・ウチナーヤマトウグチはクレオールかー琉球・クレオール日本語研究のためにー」『南島文化』30, pp.55-65.
- 佐々木香代子, 尚真貴子, 狩俣幸子 (2013) 「評定結果から見る沖縄県内高校生の沖縄の言葉の使用について」『社会言語科学会第32回大会発表論文集』pp.132-135.
- 佐々木香代子, 尚真貴子, 狩俣幸子 (2014) 「記述回答結果から見る県内高校生の地域の言葉の使用について」『社会言語科学会第33回大会発表論文集』pp. 32-35.
- 佐々木香代子, 尚真貴子, 狩俣幸子, 田中寛二 (2014) 『高校生の沖縄語使用についての調査・研究: 消えていく言葉の中で何が残っていくか?』平成23年度~25年度科学研究費補助金基盤研究 (C), 課題番号23520557, 研究代表者佐々木香代子, 研究成果報告書
- 真田信治 (2001) 『方言は絶滅するのか: 自分のことばを失った日本人』PHP新書
- 下地賀代子 (2013) 「琉球語をとりまく諸問題」沖縄国際大学南島文化研究所第185回シマ研究会発表

10 井上 (2008) は、新方言の定義として、①若い人が多く使う、②標準語にはない言い方、③使用者が方言であることを自覚、の3つの条件が必要だとしている。

レジュメ

- 尚真貴子, 佐々木香代子, 狩俣幸子 (2013) 「若者の沖縄の言葉の使用および理解」『沖縄国際大学外国語研究』17-1, pp.1-25.
- 高江洲頼子 (1994) 「ウチナーヤマトゥグチ:その音声、文法、語彙について」『沖縄言語研究センター研究報告3 那覇の方言 I』 pp.245-289. 沖縄言語研究センター
- 高江洲頼子 (2002) 「ウチナーヤマトゥグチをめぐる」『国文学解釈と鑑賞』第67巻7号, pp.151-160.至文堂
- 永田高志 (1999) 「沖縄地方の地域方言と社会方言」『日本語学』11月臨時増刊号vol.18, pp.220-227.
- 野原三義 (1996) 「沖縄の若者言葉」『沖縄文化研究』22, pp.265-282.
- 半田一郎, 編著 (1999) 『琉球語辞典』大学書林
- 宮良信詳 (2000) 『うちなーぐち講座』沖縄タイムス社
- 屋比久浩 (1987) 「ウチナーヤマトゥグチとヤマトゥウチナーグチ」『国文学解釈と鑑賞』第52巻7号, pp.119-123. 至文堂
- 米川明彦 (2014) 「昭和の若者ことば：過去と現在を比較して」『日本語学』 vol.33-15, pp.38-47.

# Use of the Okinawan Language by High School Students in Okinawa Prefecture : Transforming Words and Surviving Words

Makiko SHO  
Kayoko SASAKI

## Abstract

In order to check how young people who come from Okinawa use the Okinawan language, this survey, which consists of one part where participants selected answers on two kinds of multiple-choice questionnaires and another where students supplied their own short answers, was conducted on first-year and third-year students of 47 full-time senior high schools in Okinawa Prefecture, not including the Miyako and Yaeyama regions, from 2011 to 2012.

This paper first surveys the overall situation from the statistical results and then analyzes the results of student-generated answers. Furthermore, it compares the results with Nohara (1996), which collected and analyzed the young Okinawans' words. The conclusion examines inherited words and transforming words, or words whose meaning has changed.

The Okinawan dialect is faced with the threat of extinction, and the statistical results of this survey showed that the possibility that the use of dialect will pass to the next generation appears to be low. Even so, according to the high school students' written answers, there is some possibility, as was pointed out by Nohara. In addition to words that were traditional dialect, there are new words that are compounds of dialect and standard Japanese, and words that are going to remain because part of the word becomes standard Japanese. As Inoue (2008) mentioned, it is correct to say that dialect power still exists.

<資料1> 高校生に対するアンケート調査票

おきなわ ご ちょうさ  
沖縄語調査

こうこうせい  
高校生のみなさんへ

みなさんも知っているように、沖縄の方言がだんだん消えていっています。こうした状況の中で、高校生のみなさんがどれだけ沖縄のことは話しているか、または理解しているか調査したいと思い、このアンケートを作りました。考えすぎると、答えられなくなりますので、深く考えずに、思いのままに答えてください。

まず、あなたについて伺います。

0. 今、どこに住んでいますか？（市町村名をかいてください）：

\_\_\_\_\_市 / \_\_\_\_\_町 / \_\_\_\_\_村

1. 出身地

a. 沖縄県で生まれ、沖縄県で育った。

b. 沖縄県内と沖縄県外（または海外）のどちらにも住んだことがあるが、沖縄県内に住んでいた期間の方が長い。

c. 沖縄県内と沖縄県外（または海外）のどちらにも住んだことがあるが、沖縄県外（または海外）に住んでいた期間の方が長い。

2. 学年

a. 1年生

b. 2年生

c. 3年生

3. 性別

a. 男

b. 女

4. 高校卒業後についてのあなたの希望

a. 沖縄県内で進学または就職したいと思っている。

b. 沖縄県外で進学または就職したいと思っている。

c. わからない。

5. ご両親の出身地について

a. 両親のどちらも沖縄県内出身

b. 両親のうち、どちらかが沖縄県内出身

c. 両親のどちらも沖縄県外（または海外）出身

6. あなたの言語環境 げんごかんきょう

	おきなわ 沖縄のことばをよ く使っている	ぜんこく きょうつうご 全国共通語と おきなわ 沖縄のことばが はんはん 半々くらい	おきなわ 沖縄のことばを少 し使う	おきなわ 沖縄のことばは ぜんぜんつか 全然使わない
ちちおや 父親と				
ははおや 母親と				
ちちかた そふぼ 父方の祖父母と				
ははかた そふぼ 母方の祖父母と				
したとも 親しい友だちと				

6-1. 祖父母との同居の有無について そふぼ どうきょう うむ

- a. 父方の祖父母と一緒に住んでいる。  
ちちかた そふぼ いっしょに す
- b. 父方の祖父母は県内の別の所に住んでいる。  
ちちかた そふぼ けんない べつところ す
- c. 父方の祖父母は県外（または海外）に住んでいる。  
ちちかた そふぼ けんがい かいがい す
- d. 母方の祖父母と一緒に住んでいる。  
ははかた そふぼ いっしょに す
- e. 母方の祖父母は県内の別の所に住んでいる。  
ははかた そふぼ けんない べつところ す
- f. 母方の祖父母は県外（または海外）に住んでいる。  
ははかた そふぼ けんがい かいがい す

7. 沖縄のことばの理解についての意識 おきなわ りかい いしき

7-1. あなたは、沖縄のことばを おきなわ

- a. よく使っている つか
- b. 時々使う ときどきつか
- c. 全然使わない ぜんぜん

7-2. あなたは、沖縄のことばを聞いて おきなわ き

- a. よくわかる
- b. 少しわかる すこ
- c. 全然わからない ぜんぜん

1. 下線が引いてあることばをあなたは使いますか？または聞いてわかりますか？それぞれのことばについて、最もあてはまるものに○をつけてください。

答え方の例) 「鼻ぴーぴー」ということばを、 <u>自分は使わないが、親や祖父母などがよく使っている場合</u>					
ことばと例文	自分はよく使う	自分はたまに使う	自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く	自分は使わないが、他の人が使うのをたまに聞く	自分は使わないし、聞いたこともない
かぜひいて、 <u>鼻ぴーぴー</u> してる。			○		

ことばと例文	自分は使う	自分はたまに使う	自分は使わないが、他の人が使うのをよく聞く	自分は使わないが、他の人が使うのをたまに聞く	自分は使わないし、聞いたこともない
1) お父さんの車、 <u>じょうとう</u> だね。					
2) <u>トイレ</u> するから待ってて～。 <u>トイレ</u> したくて我慢できない。					
3) 大掃除の時に、ろうかを <u>モップ</u> した。					
4) 早いけど、 <u>お昼</u> するねえ。					
5) A：明日のビーチパーティー、先生も来るかな？ B：よくわからないけど、来るはずよ。					
6) (俺/私は) <u>帰ろう</u> ね。(帰) <u>りましょ</u> うね) (俺/私は) 先に <u>弁当</u> <u>食べよう</u> ね (食) <u>べましょ</u> うね)。					
7) ハンバーガー3つめだけけど、もうこれ以上 <u>食べきれない</u> 。					
8) (校長先生にむかって) これ、どうぞ <u>いただい</u> てください。					
9) (弟、妹など年下に) 言うこと聞かなかったら、 <u>たた</u> かれるよ。(たたくのは自分)					
10) これ、 <u>食べ</u> れ。早く、 <u>宿題</u> <u>し</u> れ。					

ことばと例文 <small>れいぶん</small>	じぶん <small>つか</small> 自分は使 う	じぶん <small>つか</small> 自分はた まに使う	じぶん <small>つか</small> 自分は使 わないが、 他の人が 使うのを よく聞く	じぶん <small>つか</small> 自分は使わ ないが、他 の人が使う のをたまに 聞く	じぶん <small>つか</small> 自分は使 わな い し、聞 いたこと も ない
11) ここに <u>来ながら</u> 、パンを買った。					
12) (相手に) 昨日、 <u>買い物</u> に行ったわけ。そしたら、 <u>買いたい物</u> がなかったわけ。で、あちこち探したわけさ。					
13) A: この <u>体育着</u> 、明日も <u>着る</u> わけ? B: うん、 <u>着る</u> よ。					
14) <u>長い間</u> 病気がしたから、 <u>よーがりひーがり</u> してるね。					
15) うちの <u>お父さん</u> 、 <u>寝</u> ている時、よく <u>歯</u> 一ざしぎしーするよ。					
16) <u>試着</u> したけど、この <u>ジーンズ</u> 、 <u>せまい</u> (さあ)。					
17) <u>弁当</u> 、こんなに <u>暑い</u> ところに置いてたら、 <u>腐</u> れるよー。					
18) みんなと出かける時につける <u>服</u> がない。					
19) <u>お腹</u> すいてたから、 <u>ちゃー</u> 食べーした。 日曜日は、 <u>ちゃー</u> 寝ーしてた。					
20) <u>一人</u> で大変だけれど、 <u>なんくる</u> ないさ。					
21) あの人は <u>がー</u> じゅーだから、 <u>何</u> 言っても聞かないよ。					
22) <u>親</u> のいない間に、 <u>おやつ</u> を <u>がちま</u> やーした」。 <u>私</u> は <u>がちま</u> やーだから、 <u>何でも</u> よく <u>食</u> べるよ。					
23) 今日、 <u>くわ</u> ちーだね。 <u>何か</u> あるの?					
24) そば <u>じょー</u> ぐー。ポーク <u>じょー</u> ぐー。 <u>豆腐</u> じょーぐー。					
25) いつもすぐ <u>怒</u> って、 <u>たん</u> ちやーだね。					
26) あの <u>人</u> 、 <u>監督</u> に <u>反抗</u> するとは <u>ちゅー</u> ばーだねー。 マラソンで <u>一番</u> になったってよ、 <u>ちゅー</u> ばーだね。					



<p>ことばと例文 <small>れいぶん</small></p>	<p>自分<small>じぶん</small>は使<small>つか</small>う</p>	<p>自分<small>じぶん</small>は使<small>つか</small>まに使う</p>	<p>自分<small>じぶん</small>は使<small>つか</small>わないが、 他<small>ほか</small>の<small>ひと</small>が 使<small>つか</small>うの<small>を</small> よく聞<small>き</small>く</p>	<p>自分<small>じぶん</small>は使<small>つか</small>わ ないが、他<small>ほか</small> の<small>ひと</small>が使<small>つか</small>う のをたまに 聞<small>き</small>く</p>	<p>自分<small>じぶん</small>は使<small>つか</small> わ ない し、聞<small>き</small> いたこと も ない</p>
27) この人はとうるばや一で、文化祭の準備が あまり進 <small>すす</small> まんさー。					
28) A：ごろごろしないで、早く部屋をかたづ けなさい。 B：ああ、なんぎ。					
29) いつも当番させられて、自分だけなんぎし ている。					
30) 最近、体力なくて、びーら一なってる。 この頃びーら一なって、すぐ風邪ひく。					
31) こんなこともできないで、ふら一だね。 毎日遊 <small>あそ</small> んでばかりいて、ふりむん <small>な</small> ってる さー。					
32) ふら一、気をつけてって言ったのに、ころ んで。					
33) 悪いことして、親にめ一ご一さ一された。					
34) あその品物はやな一だから、買 <small>か</small> わんほう がいいよ。					
35) やな傘 <small>かさ</small> だね。風 <small>かぜ</small> ですぐ、こわれたさ。					
36) 俺 <small>おれ</small> （私 <small>わたし</small> ）の友達 <small>ともだち</small> は、ゆくさ一 <small>こま</small> で困る。 あの人は、ゆくさ一 <small>しん</small> だから信 <small>しん</small> じられん。					
37) お母 <small>かあ</small> さんは友達 <small>ともだち</small> とゆんたくして、今日 <small>きょう</small> も夕飯 <small>ゆうはん</small> を作 <small>つく</small> っていない。					
38) あのタレント、きれいだけど、よ一がら一 だね。					
39) うちのお母 <small>かあ</small> さんの料理 <small>りょうり</small> は、あじく一た一だよ。					
40) この問題 <small>もんだい</small> 、難 <small>むずか</small> しすぎて（何言 <small>なに</small> っているか） いみくじわからん。					
41) ちばりよ一！絶対 <small>ぜったい</small> 勝 <small>か</small> てよ～！					
42) 寒 <small>さむ</small> いから、しっか <small>り</small> 布団 <small>ふとん</small> をかぶ <small>ね</small> って寝た。					

ことばと例文 <small>れいぶん</small>	<small>じぶん</small> 自分 <small>つか</small> は使 <small>う</small>	<small>じぶん</small> 自分 <small>つか</small> はた <small>ま</small> に使 <small>う</small>	<small>じぶん</small> 自分 <small>つか</small> は使 <small>わ</small> ないが、 <small>ほか</small> 他 <small>ひと</small> の <small>つか</small> 人が使 <small>う</small> の <small>を</small> よく聞 <small>き</small> く	<small>じぶん</small> 自分 <small>つか</small> は使 <small>わ</small> ないが、 <small>ほか</small> 他 <small>ひと</small> の <small>つか</small> 人が使 <small>う</small> の <small>を</small> たま <small>に</small> 聞 <small>き</small> く	<small>じぶん</small> 自分 <small>つか</small> は使 <small>わ</small> ない し、聞 <small>き</small> いた <small>こと</small> も ない
43) 雨降 <small>あめふ</small> っても、傘 <small>かさ</small> 、かぶらんよ。					
44) 人 <small>ひと</small> 、しかまさんで、まだどきどきしてるさー。 このぐらいでしかまんで <small>（しかむな）</small> 。					
45) 今 <small>いま</small> から来 <small>く</small> るから、そこで待 <small>ま</small> っていてね。 <small>でんわ</small> （電話で）A:「今 <small>いま</small> から俺 <small>おれ</small> （私 <small>わたし</small> ）の家 <small>うち</small> に来 <small>く</small> る？」 B:「わかった、今 <small>いま</small> 来 <small>く</small> るさ。」					
46) 繰 <small>く</small> り返 <small>かえ</small> し、簡 <small>かん</small> 単 <small>たん</small> な作 <small>さ</small> 業 <small>ぎょう</small> をしながら「これに <small>り</small> るー！」 毎 <small>まい</small> 日 <small>にち</small> 、ゴ－ヤ－ばかり食 <small>た</small> べてに <small>り</small> るよ。					
47) あわてないと、間 <small>ま</small> に合 <small>あ</small> わんよ。					
48) このみかん、全 <small>ぜん</small> 部 <small>ぶ</small> で何 <small>なん</small> 個 <small>こ</small> あるか よんでみて。					
49) 机 <small>つくえ</small> に置 <small>お</small> いてあ <small>ほん</small> った本 <small>ほん</small> 、本 <small>ほん</small> 棚 <small>だな</small> に <small>な</small> お <small>し</small> た。					
50) こんなふとい本 <small>ほん</small> 、すぐには読 <small>よ</small> めないよ。					

2. 下線が引いてあることばを、あなたは使いますか？使いませんか？あてはまる方に○をつけてください。

ことばと例文 <small>れいぶん</small>	自分は使う <small>じぶん つか</small>	自分は使わない <small>じぶん つか</small>
1) 体育の後は <u>でーじ</u> あつい。最新の携帯は <u>でーじ</u> 高いから、 買えない。		
2) 最後の試験、勉強しなかったから悪い点数とって、 <u>でーじ</u> な てる。		
3) 二日も風呂に入らないで、 <u>はごー</u> 。		
4) 自分だけいい顔して、 <u>はごー</u> 。		
5) 俺（私）のカバンをかってにあけたら、 <u>しなすよ</u> （ <u>しなさり んどー</u> ）。		
6) 俺（私）のカバンをかってにあけて見てるから、（あいつ） <u>しなす</u> （しなしたい）。		
7) 先生にあてられたけど、 <u>答え</u> をまちがえて、 <u>あふあー</u> なった。		
8) A：アメリカから「イチロー」が来るってよ。 B：えー？ A： <u>じらー</u> 。		
9) 先生 <u>じらー</u> して、俺（私）、おこるのか。		
10) <u>あがー</u> 、俺（私）の足ふむな。あがー、痛いだろう、たたくな。		
11) 明日は学校、 <u>休みだばー</u> ？		
12) A：みんなでやることにした <u>ばー</u> （よ）。 B：そうなんだ。		
13) A：なんでこんなにたくさんケーキ食べる <u>ばー</u> ？ B： <u>だからよー</u> （ね、さー）。		
14) 同じ事ばかり何度も聞いて、あの人、 <u>ちむい</u> 。		
15) あの人 <u>は悪くないのに</u> 先生に <small>せんせい</small> に <small>し</small> かれて、 <u>ちむい</u> よ。		
16) <u>だー</u> 、ちょっとかして。		
17) <u>だー</u> 、〇〇さんはどこに行ったの？		
18) <u>ぬー</u> ？よく聞 <small>き</small> こえなかった。もう1回 <small>かい</small> 言 <small>い</small> ってみて。		
19) <u>だー</u> る、あ <small>い</small> んたの言 <small>い</small> うと <small>お</small> り。		

ことばと例文 <sup>れいぶん</sup>	じぶん つか 自分は使う	じぶん つか 自分は使わない
20) A: 今年 <sup>ことし</sup> は梅雨 <sup>つゆ</sup> 入り、早 <sup>はや</sup> かったなー (ねー)。 B: <u>だーるなー</u> (ねー)。		
21) あんまりおそくまで頑張 <sup>がんば</sup> らなくても、 <u>てーげー</u> でいいよ。		
22) この料理 <sup>りょうり</sup> 、 <u>てーげー</u> おいしいなー (ねー)。		
23) 昨日 <sup>きのう</sup> おそくまで起 <sup>お</sup> きていたから、今日 <sup>きょう</sup> はに <u>ぶい</u> する。(に <u>ぶい</u> か <u>ぶい</u> している)		
24) この辺 <sup>へん</sup> はトイレか <u>じゃー</u> する。		
25) あの女 <sup>おんな</sup> の人 <sup>ひと</sup> 、香水 <sup>かうすい</sup> か <u>じゃー</u> する。いいにおい。		
26) 今度 <sup>こんど</sup> の試験 <sup>しけん</sup> 、 <u>し</u> にむずかしかった。		
27) あのTV番組 <sup>ばんぐみ</sup> 、おもしろい <u>やん</u> に。		
28) チョーむかつく <u>やし</u> 。		
29) あの <sup>ひと</sup> 人、迷惑 <sup>めいわく</sup> ばかりかけて <u>やっけー</u> だよ。		
30) A: あの <sup>ひと</sup> 人はいつも自慢 <sup>じまん</sup> ばかりしてるよな (ね)。 B: <u>いばやー</u> だよね。		
31) いつもいい成績 <sup>せいせき</sup> とって、あの <sup>ひと</sup> 人は <u>でいきやー</u> (だよね)。		
32) 一人 <sup>ひとり</sup> だけ先生 <sup>せんせい</sup> に呼 <sup>よ</sup> ばれて、 <u>へんなー</u> だった。		

3. 2以外<sup>いがい</sup>に、あなたが使う沖繩<sup>つか おきなわ</sup>のことばがあつたら、書<sup>か</sup>いてください (書<sup>か</sup>けたら、下<sup>か</sup>記<sup>き</sup>のよう<sup>か</sup>に例文<sup>れいぶん</sup>も書<sup>か</sup>いてください)。

例) ゆくる: おばあちが<sup>ちや</sup>お茶<sup>の</sup>を飲<sup>の</sup>んで、ゆくってる。

あちこーこー: あちこーこーの天<sup>てん</sup>ぷらだよ。

片<sup>かた</sup>降<sup>は</sup>い: 那<sup>な</sup>覇<sup>は</sup>だけ片<sup>かた</sup>降<sup>は</sup>いしている。

4. 「これからも残<sup>のこ</sup>っていったらいいなあ」と思<sup>おも</sup>う沖繩<sup>おきなわ</sup>のことばがあつたら、書<sup>か</sup>いてください。

ご協力、ありがとうございます。

沖繩語研究グループ

琉球大学 狩俣幸子

琉球大学 佐々木香代子

沖繩国際大学 尚真貴子

<資料2> クロス集計表（但し、統計的に有意な項目（有意確率0.05以下）のみ抜粋）

		4) お昼する							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)																
		自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な																				
地 域	中 部	度数	109	166	117	121	302	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	24.683 <sup>a</sup> 25.906 2663	12 12	.016 .011																
		地域の%	13.4%	20.4%	14.4%	14.8%	37.1%	100.0%																				
	北 部	度数	62	99	91	60	167	479	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	22.393 <sup>a</sup> 22.797 2663	12 12	.033 .029																
		地域の%	12.9%	20.7%	19.0%	12.5%	34.9%	100.0%																				
	南 部	度数	23	48	64	51	129	315					Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051												
		地域の%	7.3%	15.2%	20.3%	16.2%	41.0%	100.0%																				
	那 覇 浦 添	度数	118	199	207	149	381	1054									Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051								
		地域の%	11.2%	18.9%	19.6%	14.1%	36.1%	100.0%																				
	合 計	度数	312	512	479	381	979	2663													Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051				
		地域の%	11.7%	19.2%	18.0%	14.3%	36.8%	100.0%																				
		6) ～ようね/～ましようね																							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)
		自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な																					
地 域	中 部	度数	7	35	39	75	659	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	22.393 <sup>a</sup> 22.797 2663	12 12	.033 .029																
		地域の%	.9%	4.3%	4.8%	9.2%	80.9%	100.0%																				
	北 部	度数	6	20	30	66	357	479	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	22.393 <sup>a</sup> 22.797 2663	12 12	.033 .029																
		地域の%	1.3%	4.2%	6.3%	13.8%	74.5%	100.0%																				
	南 部	度数	4	6	17	35	253	315					Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051												
		地域の%	1.3%	1.9%	5.4%	11.1%	80.3%	100.0%																				
	那 覇 浦 添	度数	8	34	85	124	803	1054									Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051								
		地域の%	.8%	3.2%	8.1%	11.8%	76.2%	100.0%																				
	合 計	度数	25	95	171	300	2072	2663													Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051				
		地域の%	.9%	3.6%	6.4%	11.3%	77.8%	100.0%																				
		13) ～わけ？																							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)
		自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な	自 分 は 使 わ な い こ な																					
地 域	中 部	度数	17	46	83	128	541	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051																
		地域の%	2.1%	5.6%	10.2%	15.7%	66.4%	100.0%																				
	北 部	度数	21	42	62	65	289	479	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051																
		地域の%	4.4%	8.8%	12.9%	13.6%	60.3%	100.0%																				
	南 部	度数	7	26	38	42	202	315					Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051												
		地域の%	2.2%	8.3%	12.1%	13.3%	64.1%	100.0%																				
	那 覇 浦 添	度数	23	90	117	175	649	1054									Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051								
		地域の%	2.2%	8.5%	11.1%	16.6%	61.6%	100.0%																				
	合 計	度数	68	204	300	410	1681	2663													Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.602 <sup>a</sup> 20.944 2663	12 12	.042 .051				
		地域の%	2.6%	7.7%	11.3%	15.4%	63.1%	100.0%																				

		14) よーがりひーがり							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く					自 た 使 
地 域	中 部	度数	230	254	153	94	84	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	51.980 <sup>a</sup> 52.507 2663	12 12	.000 .000	
		地域の%	28.2%	31.2%	18.8%	11.5%	10.3%	100.0%					
	北 部	度数	106	139	108	63	63	479					
		地域の%	22.1%	29.0%	22.5%	13.2%	13.2%	100.0%					
	南 部	度数	40	89	79	46	61	315					
		地域の%	12.7%	28.3%	25.1%	14.6%	19.4%	100.0%					
	那 覇 浦 添	度数	208	329	230	139	148	1054					
		地域の%	19.7%	31.2%	21.8%	13.2%	14.0%	100.0%					
合 計	度数	584	811	570	342	356	2663						
	地域の%	21.9%	30.5%	21.4%	12.8%	13.4%	100.0%						
		19) ちゃー～							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く					自 た 使 
地 域	中 部	度数	30	70	109	141	465	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	64.833 <sup>a</sup> 66.143 2663	12 12	.000 .000	
		地域の%	3.7%	8.6%	13.4%	17.3%	57.1%	100.0%					
	北 部	度数	14	27	47	62	329	479					
		地域の%	2.9%	5.6%	9.8%	12.9%	68.7%	100.0%					
	南 部	度数	13	33	52	58	159	315					
		地域の%	4.1%	10.5%	16.5%	18.4%	50.5%	100.0%					
	那 覇 浦 添	度数	27	129	184	195	519	1054					
		地域の%	2.6%	12.2%	17.5%	18.5%	49.2%	100.0%					
合 計	度数	84	259	392	456	1472	2663						
	地域の%	3.2%	9.7%	14.7%	17.1%	55.3%	100.0%						
		20) なんくるないさ							合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く	分 な い の う ま く	自 使 が 人 の よ く					自 た 使 
地 域	中 部	度数	94	294	193	159	75	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	29.348 <sup>a</sup> 28.936 2663	12 12	.003 .004	
		地域の%	11.5%	36.1%	23.7%	19.5%	9.2%	100.0%					
	北 部	度数	55	159	110	96	59	479					
		地域の%	11.5%	33.2%	23.0%	20.0%	12.3%	100.0%					
	南 部	度数	28	92	78	67	50	315					
		地域の%	8.9%	29.2%	24.8%	21.3%	15.9%	100.0%					
	那 覇 浦 添	度数	104	432	230	178	110	1054					
		地域の%	9.9%	41.0%	21.8%	16.9%	10.4%	100.0%					
合 計	度数	281	977	611	500	294	2663						
	地域の%	10.6%	36.7%	22.9%	18.8%	11.0%	100.0%						

		21) がーじゅー							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	207	249	206	84	69	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	21.907 <sup>a</sup>	12	.039
		地域の%	25.4%	30.6%	25.3%	10.3%	8.5%	100.0%				
	北 部	度数	124	157	121	38	39	479				
		地域の%	25.9%	32.8%	25.3%	7.9%	8.1%	100.0%				
	南 部	度数	70	85	92	37	31	315				
		地域の%	22.2%	27.0%	29.2%	11.7%	9.8%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	314	340	236	84	80	1054				
		地域の%	29.8%	32.3%	22.4%	8.0%	7.6%	100.0%				
合 計	度数	715	831	655	243	219	2663					
	地域の%	26.8%	31.2%	24.6%	9.1%	8.2%	100.0%					
		22) がちまやー							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	66	221	194	152	182	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	26.486 <sup>a</sup>	12	.009
		地域の%	8.1%	27.1%	23.8%	18.7%	22.3%	100.0%				
	北 部	度数	44	121	102	86	126	479				
		地域の%	9.2%	25.3%	21.3%	18.0%	26.3%	100.0%				
	南 部	度数	21	63	62	60	109	315				
		地域の%	6.7%	20.0%	19.7%	19.0%	34.6%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	71	302	225	189	267	1054				
		地域の%	6.7%	28.7%	21.3%	17.9%	25.3%	100.0%				
合 計	度数	202	707	583	487	684	2663					
	地域の%	7.6%	26.5%	21.9%	18.3%	25.7%	100.0%					
		23) くわっちー							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	260	269	194	54	38	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	37.891 <sup>a</sup>	12	.000
		地域の%	31.9%	33.0%	23.8%	6.6%	4.7%	100.0%				
	北 部	度数	134	169	122	33	21	479				
		地域の%	28.0%	35.3%	25.5%	6.9%	4.4%	100.0%				
	南 部	度数	104	99	70	27	15	315				
		地域の%	33.0%	31.4%	22.2%	8.6%	4.8%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	426	344	201	49	34	1054				
		地域の%	40.4%	32.6%	19.1%	4.6%	3.2%	100.0%				
合 計	度数	924	881	587	163	108	2663					
	地域の%	34.7%	33.1%	22.0%	6.1%	4.1%	100.0%					

		24) じょーぐー						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く					自 使 が 人 の を 聞 か な い
地 域	中 部	度数	226	194	221	87	87	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	55.041 <sup>a</sup> 57.522 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	27.7%	23.8%	27.1%	10.7%	10.7%	100.0%				
	北 部	度数	73	140	141	46	79	479				
		地域の%	15.2%	29.2%	29.4%	9.6%	16.5%	100.0%				
	南 部	度数	76	78	85	29	47	315				
		地域の%	24.1%	24.8%	27.0%	9.2%	14.9%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	318	278	256	102	100	1054				
		地域の%	30.2%	26.4%	24.3%	9.7%	9.5%	100.0%				
合 計		度数	693	690	703	264	313	2663				
		地域の%	26.0%	25.9%	26.4%	9.9%	11.8%	100.0%				
		25) たんちやー						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く					自 使 が 人 の を 聞 か な い
地 域	中 部	度数	64	118	156	166	311	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	123.612 <sup>a</sup> 124.079 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	7.9%	14.5%	19.1%	20.4%	38.2%	100.0%				
	北 部	度数	90	100	93	63	133	479				
		地域の%	18.8%	20.9%	19.4%	13.2%	27.8%	100.0%				
	南 部	度数	10	21	61	66	157	315				
		地域の%	3.2%	6.7%	19.4%	21.0%	49.8%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	93	166	170	210	415	1054				
		地域の%	8.8%	15.7%	16.1%	19.9%	39.4%	100.0%				
合 計		度数	257	405	480	505	1016	2663				
		地域の%	9.7%	15.2%	18.0%	19.0%	38.2%	100.0%				
		26) ちゅーばー						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い	分 な い と い い	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く	自 使 が 人 の を 聞 か な い	分 な い の う た ま く					自 使 が 人 の を 聞 か な い
地 域	中 部	度数	57	226	251	136	145	815	Pearson の カ イ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	39.782 <sup>a</sup> 38.144 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	7.0%	27.7%	30.8%	16.7%	17.8%	100.0%				
	北 部	度数	37	130	159	69	84	479				
		地域の%	7.7%	27.1%	33.2%	14.4%	17.5%	100.0%				
	南 部	度数	19	60	78	60	98	315				
		地域の%	6.0%	19.0%	24.8%	19.0%	31.1%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	88	278	299	175	214	1054				
		地域の%	8.3%	26.4%	28.4%	16.6%	20.3%	100.0%				
合 計		度数	201	694	787	440	541	2663				
		地域の%	7.5%	26.1%	29.6%	16.5%	20.3%	100.0%				



		27) とうるばやー							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	84	192	222	151	166	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	32.653 <sup>a</sup> 33.009 2663	12 12	.001 .001
		地域の%	10.3%	23.6%	27.2%	18.5%	20.4%	100.0%				
	北 部	度数	52	134	128	80	85	479				
		地域の%	10.9%	28.0%	26.7%	16.7%	17.7%	100.0%				
	南 部	度数	18	60	79	69	89	315				
		地域の%	5.7%	19.0%	25.1%	21.9%	28.3%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	115	289	267	184	199	1054				
		地域の%	10.9%	27.4%	25.3%	17.5%	18.9%	100.0%				
合 計	度数	269	675	696	484	539	2663					
	地域の%	10.1%	25.3%	26.1%	18.2%	20.2%	100.0%					
		28) なんぎ							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	20	55	117	148	475	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	84.558 <sup>a</sup> 85.628 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	2.5%	6.7%	14.4%	18.2%	58.3%	100.0%				
	北 部	度数	5	18	32	54	370	479				
		地域の%	1.0%	3.8%	6.7%	11.3%	77.2%	100.0%				
	南 部	度数	3	6	16	42	248	315				
		地域の%	1.0%	1.9%	5.1%	13.3%	78.7%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	11	41	107	152	743	1054				
		地域の%	1.0%	3.9%	10.2%	14.4%	70.5%	100.0%				
合 計	度数	39	120	272	396	1836	2663					
	地域の%	1.5%	4.5%	10.2%	14.9%	68.9%	100.0%					
		29) なんぎする							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の	分 な い こ な い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い 他 の を 聞 に	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	41	104	154	166	350	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	41.650 <sup>a</sup> 42.301 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	5.0%	12.8%	18.9%	20.4%	42.9%	100.0%				
	北 部	度数	19	43	64	88	265	479				
		地域の%	4.0%	9.0%	13.4%	18.4%	55.3%	100.0%				
	南 部	度数	9	19	36	76	175	315				
		地域の%	2.9%	6.0%	11.4%	24.1%	55.6%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	39	104	160	220	531	1054				
		地域の%	3.7%	9.9%	15.2%	20.9%	50.4%	100.0%				
合 計	度数	108	270	414	550	1321	2663					
	地域の%	4.1%	10.1%	15.5%	20.7%	49.6%	100.0%					

		30) びーらー						合計	値	自由度	漸近有意確率 (両側)		
		自使したも	分な聞こな	はいいい	自使が、人のを聞く	分な、他のうまく	はい、他の使を聞く					自使が、人がよく	分な、他の聞
地域	中部	度数	540	157	86	20	12	815	Pearson のカイ <sup>2</sup> 乗 尤度比 有効な ケースの数	44.911 <sup>a</sup> 43.487 2663	12 12	.000 .000	
		地域の%	66.3%	19.3%	10.6%	2.5%	1.5%	100.0%					
	北部	度数	311	87	64	9	8	479					
		地域の%	64.9%	18.2%	13.4%	1.9%	1.7%	100.0%					
	南部	度数	156	73	55	16	15	315					
		地域の%	49.5%	23.2%	17.5%	5.1%	4.8%	100.0%					
	那覇 浦添	度数	647	192	157	27	31	1054					
		地域の%	61.4%	18.2%	14.9%	2.6%	2.9%	100.0%					
合計		度数	1654	509	362	72	66	2663					
		地域の%	62.1%	19.1%	13.6%	2.7%	2.5%	100.0%					
		31) ふりむん/ふらー (名詞)						合計	値	自由度	漸近有意確率 (両側)		
		自使したも	分な聞こな	はいいい	自使が、人のを聞く	分な、他のうまく	はい、他の使を聞く					自使が、人がよく	分な、他の聞
地域	中部	度数	45	130	179	162	299	815	Pearson のカイ <sup>2</sup> 乗 尤度比 有効な ケースの数	46.305 <sup>a</sup> 46.910 2663	12 12	.000 .000	
		地域の%	5.5%	16.0%	22.0%	19.9%	36.7%	100.0%					
	北部	度数	22	80	121	72	184	479					
		地域の%	4.6%	16.7%	25.3%	15.0%	38.4%	100.0%					
	南部	度数	9	29	58	56	163	315					
		地域の%	2.9%	9.2%	18.4%	17.8%	51.7%	100.0%					
	那覇 浦添	度数	27	158	210	221	438	1054					
		地域の%	2.6%	15.0%	19.9%	21.0%	41.6%	100.0%					
合計		度数	103	397	568	511	1084	2663					
		地域の%	3.9%	14.9%	21.3%	19.2%	40.7%	100.0%					
		32) ふらー						合計	値	自由度	漸近有意確率 (両側)		
		自使したも	分な聞こな	はいいい	自使が、人のを聞く	分な、他のうまく	はい、他の使を聞く					自使が、人がよく	分な、他の聞
地域	中部	度数	75	142	157	144	297	815	Pearson のカイ <sup>2</sup> 乗 尤度比 有効な ケースの数	51.240 <sup>a</sup> 51.952 2663	12 12	.000 .000	
		地域の%	9.2%	17.4%	19.3%	17.7%	36.4%	100.0%					
	北部	度数	61	99	102	66	151	479					
		地域の%	12.7%	20.7%	21.3%	13.8%	31.5%	100.0%					
	南部	度数	14	37	51	52	161	315					
		地域の%	4.4%	11.7%	16.2%	16.5%	51.1%	100.0%					
	那覇 浦添	度数	89	176	193	164	432	1054					
		地域の%	8.4%	16.7%	18.3%	15.6%	41.0%	100.0%					
合計		度数	239	454	503	426	1041	2663					
		地域の%	9.0%	17.0%	18.9%	16.0%	39.1%	100.0%					

		33) めーごーさー							合 計	値	自 由 度	漸 近 有意率 (両側)
		自 使 し た も の こ な い こ い	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に				
地 域	中 部	度数	77	292	241	111	94	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	37.006 <sup>a</sup> 36.420 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	9.4%	35.8%	29.6%	13.6%	11.5%	100.0%				
	北 部	度数	45	155	143	60	76	479				
		地域の%	9.4%	32.4%	29.9%	12.5%	15.9%	100.0%				
	南 部	度数	16	88	86	60	65	315				
		地域の%	5.1%	27.9%	27.3%	19.0%	20.6%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	106	361	323	125	139	1054				
		地域の%	10.1%	34.3%	30.6%	11.9%	13.2%	100.0%				
合 計	度数	244	896	793	356	374	2663					
	地域の%	9.2%	33.6%	29.8%	13.4%	14.0%	100.0%					
		34) やなー										
		自 使 し た も の こ な い こ い	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に
地 域	中 部	度数	38	82	143	160	392	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	67.669 <sup>a</sup> 68.025 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	4.7%	10.1%	17.5%	19.6%	48.1%	100.0%				
	北 部	度数	12	45	81	91	250	479				
		地域の%	2.5%	9.4%	16.9%	19.0%	52.2%	100.0%				
	南 部	度数	4	18	44	48	201	315				
		地域の%	1.3%	5.7%	14.0%	15.2%	63.8%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	24	64	114	190	662	1054				
		地域の%	2.3%	6.1%	10.8%	18.0%	62.8%	100.0%				
合 計	度数	78	209	382	489	1505	2663					
	地域の%	2.9%	7.8%	14.3%	18.4%	56.5%	100.0%					
		35) やな～										
		自 使 し た も の こ な い こ い	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い こ い と い	自 使 が 人 の を 聞 に
地 域	中 部	度数	77	140	187	121	290	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	28.836 <sup>a</sup> 30.187 2663	12 12	.004 .003
		地域の%	9.4%	17.2%	22.9%	14.8%	35.6%	100.0%				
	北 部	度数	25	67	100	77	210	479				
		地域の%	5.2%	14.0%	20.9%	16.1%	43.8%	100.0%				
	南 部	度数	20	35	73	49	138	315				
		地域の%	6.3%	11.1%	23.2%	15.6%	43.8%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	99	172	195	162	426	1054				
		地域の%	9.4%	16.3%	18.5%	15.4%	40.4%	100.0%				
合 計	度数	221	414	555	409	1064	2663					
	地域の%	8.3%	15.5%	20.8%	15.4%	40.0%	100.0%					

		36) ゆくさー							合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)
		自 分 は 使 わ な い し た も こ な	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	合 計				
地 域	中 部	度数	96	144	205	129	241	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	46.078 <sup>a</sup> 48.232 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	11.8%	17.7%	25.2%	15.8%	29.6%	100.0%				
	北 部	度数	66	96	114	73	130	479				
		地域の%	13.8%	20.0%	23.8%	15.2%	27.1%	100.0%				
	南 部	度数	16	37	63	62	137	315				
		地域の%	5.1%	11.7%	20.0%	19.7%	43.5%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	134	180	241	171	328	1054				
		地域の%	12.7%	17.1%	22.9%	16.2%	31.1%	100.0%				
合 計	度数	312	457	623	435	836	2663					
	地域の%	11.7%	17.2%	23.4%	16.3%	31.4%	100.0%					
		37) ゆんたくする							合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)
		自 分 は 使 わ な い し た も こ な	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	合 計				
地 域	中 部	度数	37	129	238	156	255	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	62.748 <sup>a</sup> 62.862 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	4.5%	15.8%	29.2%	19.1%	31.3%	100.0%				
	北 部	度数	13	81	117	88	180	479				
		地域の%	2.7%	16.9%	24.4%	18.4%	37.6%	100.0%				
	南 部	度数	7	34	70	54	150	315				
		地域の%	2.2%	10.8%	22.2%	17.1%	47.6%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	21	140	237	165	491	1054				
		地域の%	2.0%	13.3%	22.5%	15.7%	46.6%	100.0%				
合 計	度数	78	384	662	463	1076	2663					
	地域の%	2.9%	14.4%	24.9%	17.4%	40.4%	100.0%					
		38) よーがらー							合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)
		自 分 は 使 わ な い し た も こ な	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	自 分 は 使 わ な い が 人 の を た ま	合 計				
地 域	中 部	度数	325	215	155	64	56	815	Pearson の カイ 2 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	48.903 <sup>a</sup> 45.930 2663	12 12	.000 .000
		地域の%	39.9%	26.4%	19.0%	7.9%	6.9%	100.0%				
	北 部	度数	200	119	95	29	36	479				
		地域の%	41.8%	24.8%	19.8%	6.1%	7.5%	100.0%				
	南 部	度数	86	79	65	37	48	315				
		地域の%	27.3%	25.1%	20.6%	11.7%	15.2%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	438	256	214	60	86	1054				
		地域の%	41.6%	24.3%	20.3%	5.7%	8.2%	100.0%				
合 計	度数	1049	669	529	190	226	2663					
	地域の%	39.4%	25.1%	19.9%	7.1%	8.5%	100.0%					

		39) あじくーたー						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い こ な い こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い					自 使 が 人 の こ な い
地 域	中 部	度数	137	159	179	144	196	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	22.947 <sup>a</sup>	12	.028
		地域の%	16.8%	19.5%	22.0%	17.7%	24.0%	100.0%				
	北 部	度数	56	84	100	96	143	479				
		地域の%	11.7%	17.5%	20.9%	20.0%	29.9%	100.0%				
	南 部	度数	30	49	69	71	96	315				
		地域の%	9.5%	15.6%	21.9%	22.5%	30.5%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	148	189	214	220	283	1054				
		地域の%	14.0%	17.9%	20.3%	20.9%	26.9%	100.0%				
合 計		度数	371	481	562	531	718	2663				
		地域の%	13.9%	18.1%	21.1%	19.9%	27.0%	100.0%				
		40) いみくじわからん						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い こ な い こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い					自 使 が 人 の こ な い
地 域	中 部	度数	114	248	148	147	158	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	54.908 <sup>a</sup>	12	.000
		地域の%	14.0%	30.4%	18.2%	18.0%	19.4%	100.0%				
	北 部	度数	50	107	91	92	139	479				
		地域の%	10.4%	22.3%	19.0%	19.2%	29.0%	100.0%				
	南 部	度数	24	60	60	71	100	315				
		地域の%	7.6%	19.0%	19.0%	22.5%	31.7%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	122	303	210	208	211	1054				
		地域の%	11.6%	28.7%	19.9%	19.7%	20.0%	100.0%				
合 計		度数	310	718	509	518	608	2663				
		地域の%	11.6%	27.0%	19.1%	19.5%	22.8%	100.0%				
		41) ちばりよー						合 計	値	自 由 度	漸 近 有 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い こ な い こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い	自 使 が 人 の こ な い	分 な い こ な い こ な い					自 使 が 人 の こ な い
地 域	中 部	度数	54	219	263	139	140	815	Pearson の カイ2乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	32.341 <sup>a</sup>	12	.001
		地域の%	6.6%	26.9%	32.3%	17.1%	17.2%	100.0%				
	北 部	度数	27	113	140	98	101	479				
		地域の%	5.6%	23.6%	29.2%	20.5%	21.1%	100.0%				
	南 部	度数	12	69	90	56	88	315				
		地域の%	3.8%	21.9%	28.6%	17.8%	27.9%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	51	301	292	217	193	1054				
		地域の%	4.8%	28.6%	27.7%	20.6%	18.3%	100.0%				
合 計		度数	144	702	785	510	522	2663				
		地域の%	5.4%	26.4%	29.5%	19.2%	19.6%	100.0%				

		44) しかます						合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い と い は い い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に					分 な い の う ま く 聞 く
地 域	中 部	度数	143	159	151	161	201	815	Pearson の カイ <sup>2</sup> 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	126.579 <sup>a</sup>	12	.000
		地域の%	17.5%	19.5%	18.5%	19.8%	24.7%	100.0%				
	北 部	度数	91	84	79	96	129	479				
		地域の%	19.0%	17.5%	16.5%	20.0%	26.9%	100.0%				
	南 部	度数	18	34	69	60	134	315				
		地域の%	5.7%	10.8%	21.9%	19.0%	42.5%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	72	158	218	218	388	1054				
		地域の%	6.8%	15.0%	20.7%	20.7%	36.8%	100.0%				
合 計		度数	324	435	517	535	852	2663				
		地域の%	12.2%	16.3%	19.4%	20.1%	32.0%	100.0%				
		46) にりる						合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い と い は い い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に					分 な い の う ま く 聞 く
地 域	中 部	度数	61	46	120	162	426	815	Pearson の カイ <sup>2</sup> 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	56.501 <sup>a</sup>	12	.000
		地域の%	7.5%	5.6%	14.7%	19.9%	52.3%	100.0%				
	北 部	度数	31	32	74	83	259	479				
		地域の%	6.5%	6.7%	15.4%	17.3%	54.1%	100.0%				
	南 部	度数	32	35	57	59	132	315				
		地域の%	10.2%	11.1%	18.1%	18.7%	41.9%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	135	101	194	168	456	1054				
		地域の%	12.8%	9.6%	18.4%	15.9%	43.3%	100.0%				
合 計		度数	259	214	445	472	1273	2663				
		地域の%	9.7%	8.0%	16.7%	17.7%	47.8%	100.0%				
		49) なおす						合 計	値	自 由 度	漸 近 意 確 率 (両側)	
		自 使 し た も の こ な い と い は い い と い	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に	分 な い の う ま く 聞 く	自 使 が 人 の を 聞 に					分 な い の う ま く 聞 く
地 域	中 部	度数	101	102	57	129	426	815	Pearson の カイ <sup>2</sup> 乗 尤 度 比 有 効 な ケ ー ス の 数	33.641 <sup>a</sup>	12	.001
		地域の%	12.4%	12.5%	7.0%	15.8%	52.3%	100.0%				
	北 部	度数	54	65	41	56	263	479				
		地域の%	11.3%	13.6%	8.6%	11.7%	54.9%	100.0%				
	南 部	度数	40	25	23	61	166	315				
		地域の%	12.7%	7.9%	7.3%	19.4%	52.7%	100.0%				
	那 覇 浦 添	度数	106	82	89	156	621	1054				
		地域の%	10.1%	7.8%	8.4%	14.8%	58.9%	100.0%				
合 計		度数	301	274	210	402	1476	2663				
		地域の%	11.3%	10.3%	7.9%	15.1%	55.4%	100.0%				

<資料3> 平均値の比較

両親の出身：

	度 数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値	
					下 限	上 限			
方言使用に 対して積極的	どちらも県内	2270	30.14	10.941	.230	29.69	30.59	0	50
	どちらかが県内	333	25.47	11.352	.622	24.25	26.70	0	50
	どちらも県外	60	18.48	11.979	1.547	15.39	21.58	0	50
	合 計	2663	29.30	11.241	.218	28.87	29.72	0	50
方言使用に 対して消極的	どちらも県内	2270	14.94	8.761	.184	14.58	15.30	0	50
	どちらかが県内	333	16.78	8.779	.481	15.84	17.73	0	50
	どちらも県外	60	20.13	9.663	1.247	17.64	22.63	0	48
	合 計	2663	15.29	8.833	.171	14.95	15.62	0	50
方言使用に 対して無関心	どちらも県内	2270	4.92	6.096	.128	4.67	5.17	0	50
	どちらかが県内	333	7.74	7.533	.413	6.93	8.56	0	50
	どちらも県外	60	11.38	8.413	1.086	9.21	13.56	0	31
	合 計	2663	5.42	6.482	.126	5.17	5.66	0	50

	平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	
方言使用に 対して積極的	グループ間	13519.884	2	6759.942	55.697	.000
	グループ内	322846.568	2660	121.371		
	合 計	336366.452	2662			
方言使用に 対して消極的	グループ間	2429.836	2	1214.918	15.744	.000
	グループ内	205258.976	2660	77.165		
	合 計	207688.813	2662			
方言使用に 対して無関心	グループ間	4509.240	2	2254.620	55.877	.000
	グループ内	107329.584	2660	40.349		
	合 計	111838.824	2662			

進路希望（将来の志向）：

	度 数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値	
					下 限	上 限			
方言使用に 対して積極的	県内で進学・就職希望	1481	30.43	10.739	.279	29.88	30.98	0	50
	県外で進学・就職希望	838	27.61	11.769	.407	26.81	28.41	0	50
	わからない	344	28.53	11.490	.620	27.31	29.75	0	50
	合 計	2663	29.30	11.241	.218	28.87	29.72	0	50
方言使用に 対して消極的	県内で進学・就職希望	1481	14.85	8.564	.223	14.41	15.29	0	50
	県外で進学・就職希望	838	15.98	9.174	.317	15.36	16.60	0	50
	わからない	344	15.47	9.034	.487	14.51	16.43	0	50
	合 計	2663	15.29	8.833	.171	14.95	15.62	0	50
方言使用に 対して無関心	県内で進学・就職希望	1481	4.72	5.570	.145	4.44	5.00	0	50
	県外で進学・就職希望	838	6.41	7.334	.253	5.91	6.90	0	50
	わからない	344	6.00	7.491	.404	5.21	6.79	0	50
	合 計	2663	5.42	6.482	.126	5.17	5.66	0	50

グループ間	4480.911	2	2240.455	17.957	.000
グループ内	331885.542	2660	124.769		
合 計	336366.452	2662			
グループ間	696.089	2	348.045	4.473	.012
グループ内	206992.723	2660	77.817		
合 計	207688.813	2662			
グループ間	1659.435	2	829.717	20.031	.000
グループ内	110179.389	2660	41.421		
合 計	111838.824	2662			

地域：

	度 数	平均値	標準偏差	標準誤差	平均値の95%信頼区間		最小値	最大値	
					下 限	上 限			
方言使用に 対して積極的	北 部	479	28.91	11.251	.514	27.90	29.92	0	49
	中 部	815	28.71	10.961	.384	27.95	29.46	0	50
	那 覇 ・ 浦 添 部	1054	29.23	11.164	.344	28.55	29.90	0	50
	南 部	315	31.64	11.935	.672	30.32	32.97	0	50
	合 計	2663	29.30	11.241	.218	28.87	29.72	0	50
方言使用に 対して消極的	北 部	479	15.58	8.894	.406	14.78	16.38	0	50
	中 部	815	15.54	8.514	.298	14.96	16.13	0	47
	那 覇 ・ 浦 添 部	1054	15.31	8.841	.272	14.78	15.84	0	50
	南 部	315	14.10	9.449	.532	13.06	15.15	0	50
	合 計	2663	15.29	8.833	.171	14.95	15.62	0	50
方言使用に 対して無関心	北 部	479	5.51	6.618	.302	4.91	6.10	0	50
	中 部	815	5.75	6.916	.242	5.28	6.23	0	50
	那 覇 ・ 浦 添 部	1054	5.46	6.238	.192	5.08	5.84	0	50
	南 部	315	4.25	5.773	.325	3.61	4.89	0	44
	合 計	2663	5.42	6.482	.126	5.17	5.66	0	50

グループ間	2096.737	3	698.912	5.560	.001
グループ内	334269.715	2659	125.713		
合 計	336366.452	2662			
グループ間	534.692	3	178.231	2.288	.077
グループ内	207154.121	2659	77.907		
合 計	207688.813	2662			
グループ間	526.579	3	175.526	4.193	.006
グループ内	111312.245	2659	41.862		
合 計	111838.824	2662			